



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 青少年健全育成大会

11月23日(木)、第47回座間市青少年健全育成大会が開催されました。「育てよう心豊かな しまっ子 ～出愛い・ふれ愛・助け愛～」のテーマのもと、座間市青少年問題協議会(会長:座間市長)が主催となり、次世代を担う青少年が心豊かに健康でたくましく成長していくことができる地域社会づくりを願い、関係者が一堂に会しました。この大会の中で、中学生の主張作文コンクールとして募集した作品の中から入賞した中学生の表彰式と作品の紹介がありました。入賞作品は9つあり、1冊の冊子にまとめられて配付されましたが、そのうちの3作品を一同の前で本人が朗読する形をとりました。

中学生一人一人が、生きていく過程の中で歩んできた足あとを振り返りながら、自分の考えや思いを文章に起こして主張し、一つの作品としてまとめあげられたものはどれも心打たれるものばかりでした。その中の一つである、市長賞を受賞した栗原中学校3年生 丸橋 蘭さんの作品「母の影響」を紹介したいと思います。作品の中で丸橋さんは、人生の中で多くの人を笑顔にしたいこと、百歳になるほど長生きしたいこと、それは母の影響であることを作品の冒頭で主張し、朗読が始まりました。丸橋さんのお母様は、丸橋さんが五歳の時に三十二歳の若さで亡くなったこと。お母様が闘病していたことは知っていたけれど常に笑顔で明るかったために、亡くなるとは一度も考えなかったこと。その後は、祖父母

の家で六人家族という賑やかで温かな環境の中で生活を送り、お母様のこともだんだんと忘れていってしまったとのこと。しかし、祖母から渡されたお母様の日記を手に取り、丸橋さんの小さな頃の病気に対してお母様が尽力なさってきた行動を知り、丸橋さんは、「日記を見て泣いた」と朗読していました。病気のこと以外にも、自分の面倒を見てくれた親戚、友人等の周囲の人のこと、自分の成長の様子、今までに喋った単語、「おりこうらんちゃん、大好きだよ」というメッセージ等があり「全てに愛を感じた」と表現していました。また、蘭という名前に込められた「上品で人の心を明るくしてくれる人になってほしい」というお母様の思いを知り「少しでも優しい表情でいる事を心がけて人の心を明るく、人を笑顔にできる人になりたいと思った」と朗読しました。そして、最後の主張を次のようにまとめ、朗読を終えました。

「一つ目は母が名前に込めた願いのように私が今まで多くの人に助けられたり笑顔にされたりしてきたのだから、多くの人を助け、笑顔にしていきたいという事だ。二つ目は母が全力で作ってくれた自分の健康な頭や体を母の努力を台無しにしないように母のために長生きしたいという事だ。そして、最後は、これらの主張をするようなきっかけを作り、私の人生に良い影響を与えてくれた母が大好きだという事だ。」

丸橋さんの作品に触れ、お母様が命をかけて遺された無償の愛こそが、人を支える土台になることを教えられました。自分の命の使い方を考える時間となりました。